

科学者委員会・男女共同参画分科会（第22期・第1回）議事要旨

- 1 日 時 平成24年1月6日（金）14:00～16:00
- 2 場 所 日本学術会議 第5－B会議室（5階）
- 3 出席者 江原由美子委員長、小舘香椎子副委員長、田畑泉幹事、有信睦弘幹事、井野瀬久美恵委員、辻村みよ子委員、清水誠委員、桃井眞里子委員（計8名）

【配付資料】

資料1 報告 学術における男女共同参画推進の加速に向けて

資料2 内閣府男女共同参画局長依頼「科学者コミュニティにおける政策・方針決定過程への女性の参画を拡大する方策の審議について」

3 議 題

（1）役員の選出について

- ・ 委員長については、江原委員、副委員長については、小舘委員、幹事については、田畑委員、有信委員に決定した。

（2）今までの経緯について

- ・ 事務局より21期の活動内容について、概要を説明。
- ・ 21期の報告「学術における男女共同参画推進の加速に向けて」が昨年12月に開催された私大連のシンポジウムにおいて配布されたことが述べられた。また、男女共同参画に対する私大の意識が薄く、アンケート調査に対する回答も50％程度であることが述べられた。
- ・ プラス面の成果を出している大学に対しては、名前を出すなどして評価していくことも学術会議においては、重要なことではないかとの発言があった。
- ・ これまでの調査の内容について質問が出されるとともに、男女共同参画については、子供の時の動機づけが大きく関与しており、社会学的、心理学的観点からの調査が行われてきたかということが問われ、過去においてそのような調査が行われていることの説明があった。
- ・ 男女共同参画について、日本の現状が進まないのはなぜかその理由を追求することが重要であり、こういった現状を改善するためには、どういうインセンティブが必要かということを明確にすることが重要であるとの発言があった。
- ・ 女性参画の数が少ないということが具体的社会的事象としてどのような弊害を招いているのかを明らかにしなくてはならないとの発言があり、委員長より、男女共同参画の重要性を具体的な形にまで示し切れていないところがやはりあるのではないかということが述べられた。
- ・ 1970年代の北米の医学系大学において女性キャリア育成のためのプロジェクトが国家強制力を持ってスタートし、成果を上げたことが述べられ、男女共同参画については、ある程度の強制力を持って臨まないに変革は難しく、単に国民の理解を待っているだけでは、問題は解決

しないとの発言があった。

- ・ 分野において男女共同参画比率に差があるが、すべてを同じ比率に持っていくことが最終的な目標であるのかとの発言があり、それに対し、男女共同参画については、単に数を増やせばよいという問題ではないとの意見が述べられた。

(3) 今後の運営について

- ・ 事務局より、内閣府男女共同参画局長より「科学者コミュニティにおける政策・方針決定過程への女性の参画を拡大する方策の審議について」意見提出の要請があったことを説明。
- ・ 協力学術研究団体に対して代表や会員の女性比率等についてアンケート調査を実施することとなった。
- ・ 2013年6月から7月にかけてこれまで実施してきた定点観測調査の継続調査を実施することとなった。
- ・ 定点観測調査を実施するに当たり、以下の通り、3つのWGを設置することとなった。
 - ① 協力学術研究団体を対象とする調査WG
 - ② 大学を対象とする調査WG
 - ③ 報告書作成のWG
- ・ 4月の総会時において、次回分科会を開催することとし、その際にそれぞれのWGがプランを示し、議論することとなった。

以上